

それぞれの技

中津市長 奥塚 正典

人形浄瑠璃「文楽」。人形遣い、語り、三味線と三者一体となった演技は圧巻。その人形も、右手と本体、左手、足を3人が分担して動かすのです。所作がまるで本物の人間のようにです。

百人一首競技かるた。読み上げから札取りまで瞬時です。記憶力、集中力、反射神経、運動能力のすべてが凝縮されています。

障がい者が創作したアート作品。本当に精密で渾身のエネルギーが粘り強く投入されています。これらは、今年の国民文化祭、全国障がい者芸術・文化祭で中津で演じられ発表されました。

一方、スポーツの世界。全国トップレベルの東九州龍谷高校の女子バレーボール部選手が小学生に直接教えます。模範演技をする選手はどんな強烈なボールも正確にレシーブし返球します。また、2年連続・3度目の剣道日本一となった中津出身の西村英久選手。決勝戦で試合開始後1分と経たないうちに鮮やかに小手2本を決めキレとスピードが抜群です。

どうしたらこんなことができるようになるのか。普通ならできないと思われることをやり遂げる力、それこそ鍛錬を重ね身に付けた「技」と言うものでしょう。「技」を研ぎ澄まし発揮する人のパフォーマンスは観衆の驚きを呼び、言葉不要の生命力の発露となって大きな感動を与えます。

一流の「技」はこのように観賞して楽しむことができます。一方で、われわれの日常生活や趣味の世界、レベルは高くなくても習得すると健康増進に役立ったり、毎日が楽しくなり人生に彩りが加わります。気軽に何かに取り組み「自分流の技」を身に付けたいですね。



西村選手の「小手」

そこで今年の私の挑戦、ミニバレーボールと料理の腕を上げること。若いチームメイトと長年のパートナーは「まず無理よ」と笑っていますが……。